



記念グッズに見入る高校生

「君の汗 輝く一滴勝利の雫 (しずく)」のスローガンのもと、全国高等学校総合体育大会(インターハイ)「煌(きら)めく青春南関東総体2014」が7月30日から8月20日まで、山梨県、東京都、千葉県、神奈川県、南関東1都3県で開催された。

山梨県では、8月10日までの12日間にわたって、甲府市・韮崎市・笛吹市・南アルプス市・山梨市・富士河口湖町の6市町で、陸上競技、卓球、サッカー(男子)、ボート、自転車競技、ホッケー、ウエイトリフティング、カヌーの8競技が行われ、全国から多くの選手と役員が参加し盛大に開催された。

山梨県スポーツ専門店協同組合(田邊裕人理事長 組合員16社)は、山梨県内でのインターハイ開催にあたり、各会場の売店テントでスポーツ用品やTシャツ・バッチ・タオルなど大会記念品の販売・管理を組合員が交代で担当した。

組合では、これまでも昭和61年の「かいじ国体」、平成8年の「インターハイ」でも参加選手などに対して販売・管理を実施しており、今回もその時の経験を活かして、スムーズな準備と運営を行うことができた。

今回のインターハイには、2020年の東京オリンピックで活躍が期待される高校生アスリートもたくさん出場しており、選手たちが集中して競技に打ち込めるよう、組合員が一丸となり、スポーツ用品の販売だけでなく用具の修理やメンテナンスなどにも取り組み、大会成功のために「役買った」。

田邊理事長は「4月の増税後、最大イベントのインターハイだったので、記念品等の物販にどれだけ影響があるか懸念含みのスタートではあったが、組合員の協力で今回のインターハイでの物販事業も成功できた。スポーツ用品の販売は大手の郊外型店舗が幅を利かせているが、我々組合員は県内各地の小中学校や高校の体育やクラブ活動を用具納入などで支えている。これからの様々な形で将来のスポーツ界の発展のために力を合わせていきたい。」と語った。

